

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.17 2017年10月12日(木)

私学助成署名運動 各地で始動!! 9月末集約7万4,000筆超

7月配布県も3割(報告のあった県中)ある中、9月配布をはじめ秋の私学助成運動が本格的に始動しています。9月末集約についても10県からの報告が届いています。校務における行事、私学フェスティバル等の取り組みなど10月、11月は駆け足で過ぎていきます。全国の取り組みを教訓に昨年を上回る集約数をめざす私学助成署名運動をすすめていきましょう。

9月末集約数 **74,131筆** (10/10現在)

10/4 締切で全国事務局への報告を求めた私学助成全国署名9月末集約数は、10県合計で74,131筆でした。報告の届いた18県中、9月末集約日を設定していたのは4県、それ以外の県は会議等で聞き取りをしての報告でした。

山形では10/9の私学フェスティバルを中間点と位置づけ、9月末で目標10万筆のほぼ半数に近づく48,074筆を集約しています。

東京和光学園では、9/16の和光デーですでに「数万筆が…」という報告もあり、都道府県での集約は動いていなくても、確実に集まっている署名が各学園に集まってきていることが予想されます。集約数は上記をさらに上まわっているものと思われます。

声かけの契機として、中間集約日の設定を!

署名の集約について、県全体で声を掛け合うことが集約数の増加につながる事は、各県の教訓から明らかです。それをねらいとして中間集約日の設定を9月の全国会議で決定しました。各県の秋の方針報告によると、10月末集約の設定が報告のあった18道県中11県、11月中旬集約日設定が11県という残念な状況です。



多忙な秋ではありますが、昨年打っていない手立てに踏み出すことが、署名数増を実現させます。未設定県では、今からでも中間集約日を設定し、声かけの仕掛けにしていきたいと思います。

岩手私教連

総括議論で提示目標を超過する自主目標9万筆を設定!!

岩手私教連では9月19日(火)に単組代表者会議を開催し、今年度の私学助成運動に向けて、昨年の署名運動の取り組みについて総括議論を行いました。

加盟全単組が、昨年の署名運動の取り組みを具体的に振り返り、「やったこと」と「やらなかったこと」を挙げて取り組みを点検しました。その結果、他学園の取り組みで自学園でもできるのに「やらなかったこと」が見えてくるなど、客観的な検証の機会となりました。

こうした議論の末、各学園で今年度の署名目標数を挙げ合いました。その積み上げの結果、全国が提示した目標8万筆を上回る9万1,500筆という自主目標となりました。

国の就学支援金で年収250万円未満世帯まで事実上授業料無償となるため県の授業料減免補助が現在停止している状況(廃止ではないと県は発言)です。県請願は採択されながらの現状を打破し、授業料減免補助の改善を県に迫るには、署名の集約数を大きく伸ばすことが重要になる、その決意が示される目標議論となりました。

私学助成署名運動は始動しましたが、各県においても署名運動を展開する中で、こうした議論を起こし、集約数増につなげましょう。



“わかって” 署名に取り組もう!! …学習会の開催が署名数の飛躍につながります

「父母が署名文化に馴れていない」「配布するだけでは集まらなくなってきた」「若い先生方が“私学助成を知らない”」「何よりも職場が忙しすぎて」等々、署名漸減が止まらない理由はいくつも挙がっています。しかし、前年の取り組みを総括する春のブロック研修会や全国の会議においては、「やはり学習会が必要」という感想が出されています。今年はこの声を具体的に運動にしていこうと期して、全県単位の学習会は必須とした上で、全学園で1回の学習会を設定することを全国で決定しました。

愛知では、教員24学園600名、父母29学園1,905名、高校生7学園324名が学習会を終えています。私学助成署名の主体者を増やす学習会があって、毎年の集約数につながっています。その点、前出の**岩手私教連**の単組代表者会議も重要な学習の場面といなっています。今年の私学助成署名運動は、学習会を学園ごとに設定するかどうかで集約数に違いが出てくることは間違いありません。

東京：和光学園では、9月16日に「和光デー」を開催しました。幼稚園から大学まで

ある総合学園の幼稚園から高校まで2園4校の父母と教職員が一堂に会し、私学助成署名運動の中間地点における決起の場となる集会です。各園、各校のPTA私学助成部(名称は異なります)の代表の方が、後半期への決意を述べます。そこでは皆さんが、そこでの学習に基づき「経済的な心配なく教育で学校を選べるように」と異口同音に私学助成署名の意義を語っておられました。

青森では8月26日に県学習会を開催し、そこで学んだことを素に3学園で学習会が開催されました。**新潟**でも3学園で教員向けの学習会が開催されています。**埼玉**の定期大会でも、「お母さんが署名やっても変わらない、って言ってたよ」という生徒の声に、担任が私学助成署名の意義を語った事で、翌日生徒が署名を提出した、とうい発言がありました。

東京の三多摩地区協では10/6に私学助成署名学習会を開催。6学園の幹部が1名ずつ青年を連れて参加。「私学助成とは何か」から、現在の情勢までを学習しました。今年度学園の私学助成署名担当となった青

年は、「大切とは言われていたけれど…、なぜ、どう大切かが学習会でよく理解できました。子どもたちの教育条件と同時にわたしたちの労働条件や生活にも直結しているのですね」と感想を述べ、余った資料を持ち帰っていました。春には**兵庫**で、県の学習会に参加した30代の青年が「この内容は教職員全員が聞くべきことだ」と校長に直訴し、校内研修会に私学助成学習会を位置づけた例もあります。

埼玉：自由の森学園では5月と9月に父母向け学習会を開催。9月9日は哲学者の西研さんをお呼びし120名の参加で成功させました。そこで保護者の意識が大きく変わり、学校説明会で署名活動が行われところにまで至っています。

署名運動はスタートしましたが、取り組みと並行して学園単位の学習会を今からでも開催して署名集約の原動力にしていきたいと思います。



未設定県においては、「学園単位の学習会」と「中間集約日」を今からでも提起、設定し、みんなが理解して取り組む全国署名運動にしていこう